第１回はたらく部会会議録

日　　時	2013年4月23日（火）10：00～12：00
場　　所	地域連携交流施設２階　会議室
主 席 者	都倉弘明、岡田純代、加藤和子、岡部房枝、森本稔、越田典子、濱口直哉、藤本良隆、前田忠男、政本和子、吉水富美
テ ー マ	１、　本日参加メンバー自己紹介 ２、　H25年度の活動について ３、　その他 ４、　次回開催日について
内　　容	１、　本日参加メンバー ・今年度より、福田統括に変わり前田リーダーが参加 ２、H25年度の活動について：昨年度の３つのテーマのうち「はたらくマップ」の作成を終了し事業所間で連携をしていく中で活用していくという事で、テーマを２つに絞って活動していく ○「はたらく人の声を聞く」について・・・はたらいている当事者の意見交換の場を提供する ・昨年度は、2 回の「はたらく人の声を聞く」を開催したが、今年度も実施の方向で協議したい ・東はりま特別支援学校の卒業生が、2年目になり卒業生の話し合いの機会を設けてはどうか →卒業生は、昨年度卒業生から同窓会という形で、夏に集まりを持っている 約9割の卒業生が参加している 親の送迎が必要な人は離れやすいが、自分で通える人は、友達を求めて参加している 部会で、会を持つ事が必要か検討してはどうか ・本人の声を聞く場がない ・はたらく事に対する思いや、家族には言いにくいこと等を、気軽にガス抜きできる場が必要 ・職場の人意以外と話す機会が持ちにくく、これから自立していくための環境を持ちにくい現状があると思う→必要性は感じるが、くらしの部分も「はたらく部会」が担うのはどうか →はたらくことから出てくる課題で、くらしにつながる課題がでてきたら「くらす部会」に繋げていけばいいので、まずは意見を聞く場を提供したい ・就労継続の場でも、利用者間の話に職員が入ると、話が止まる事がある ・利用者も不満等のはけ口がないと感じる事があるので、「はたらく部会」で考えていっても良いのではないか ・参加者は、一般企業に就労した人も、それ以外の人も一緒に「はたらく人」としていいのではないか ・播磨町の人を中心に、３～４ヶ月に１回位のペースで、ゆるやかに進めてはどうか ・ファシリテーターがいて、「何でも相談していい場」として持つのはどうか ・力がついてきたら、本人活動に広げていけばいいのではないか ・自立支援協議会の各部会（「そだつ部会」「くらす部会」「はたらく部会」）それぞれは、各内容に特化して協議する意味があるので、ここでは「はたらく」に特化して話を聞くのはいいが、生活全般となると、「はたらく部会」で取り組むのはどうかと思う ・この地域は、特別支援学校と「はぐるま」が、繋がっており、他にない支援ができていると思うので、あえて生活全般を、この「はたらく部会」で協議するのはどうかと思う

	・「はたらく人の声を聞く」の場では、「はたらき続けるために、仲間同士が励まし合う場を提供したい ・加古川市や神戸市では、仲間同士が励まし合う場があるので、同じイメージならばニーズはあると思うので、３～４ヶ月位ならボツボツ集まると思う ・「はたらく人を支える」ならば、本人の意見を聞き生きていく力を付ける事が必要 ・はたらく事が、高等学校卒業後のメインになるのだから、本人同士が集まるだけでは難しいので、きっかけの提供として、「はたらく」ことへのモチベーションを上げるための場とし、中心は「はたらく人」である ・昨年度の「はたらく人の声を聞く」は、単発で実施したが、今年度は継続して開催していきたい ・「はたらく部会」の枝分かれした深まりの部分と考えて、継続した「はたらく」を支える ・本人部会がまだないので、今後つなげていければいいのではないか ・昨年度の「はたらくマップ」訪問活動のように、チームの活動としていきたい ・自分の子どもは、特別支援学校の高等部１年生だが、大きくなった時に、こういう場があればいいと思う ・対象と考えられる特別支援学校の卒業生は、播磨町在住者は３人と少ないが、在学中の生徒も参加していいのか→お知らせして、参加し易いようにしても良いのではないか ・就労移行支援事業所から一般に就労した人が、昨年度４人いたので、声をかけてみるのも良いのではないか ・場所：地域連携交流施設 ・支援学校卒業生では、２年目の人が２人いるが、土曜日は仕事があるので、日曜日ならきやすいと思う ・皆の前で話すのはなかなか難しい人も多いので、許可を受けてはたらく様子を、紹介するのはどうか ・はじめは「集まる」ことからで良いのではないか ・職場の紹介は、会を重ねてからでもいいし、座談会のようなっても良いのではないか ・今年は、集う場を定着させる事が目標となるのではないか ・今年度は、「皆で話す」ことと、内容やテーマがぶれない事が必要 ・成功例だけでなく、どんなことで困るかを吸い上げる事が大切 ・発言しにくくならないような配慮が必要 ・はじめから設定するのではなく、段階をふんで見守る ・時期：案内チラシを７月１４日の「播磨町ふれあいフェスタ」で配布し、８月４日（日）に第１回を開催する ○ハローワークや「はぐるま」等との連携した活動 ・事業所見学会の開催については、高砂に出来た就労継続Ａ型事業所は、週１回は公共職業安定所に顔を出してくれて連携している ・就労継続Ａ型事業所の見学については、近隣の施設で可能な所はあるが、見学の目的や、見学に誰が行くのかを、決めてからにしてはどうか ・「はたらくを支えるための環境つくり」には、①制度を知る②新しい場所を知る③親を含めた環境作りが必要だと思う ・親支援であれば、加古川や神戸で行われる「合同就職選考会」であれば、身体・知的精神の

方が企業の面接を受ける姿を親が見る機会は提供出来るのではないか
・現段階では、具体的な見学会の開催というより、ニーズに合わせて今後検討してはどうか

・就労支援機関との情報交換については、「はぐるま」の話を聞くのはどうか
・就労継続Ｂ型の利用については、本年度より「障害者就業･生活支援センター」等のアセスメントを受けること又は協議会や審査会にはかることになっているが、播磨町はどうしていくのか→「障害者就業･生活支援センター」が実際に行うのかはまだ決定していないことである。このため、経過を見守るとともに、相談事業所や特別支援学校での職場実習結果等をもとに審査会で意見を徴することも考えている。
・「相談支援での就労に関する相談」と「障害者就業･生活支援センターでの相談」は、内容が違うので、「障害者就業･生活支援センター」で行う相談は、就労に特化した部分を聞きとるようになるのではないか
・国は明言していないが、福祉就労から一般就労へ移行する方針で、流れを作ろうとしている
・国からの情報は２月以降は、入ってきていないが、今年度取り組む予定のモデル事業がどんな内容の物か資料で確認するなどして具体的な流れを知る事を、部会でしてはどうか

○「はたらくマップ」の活用について
・H23 年、24 年度の強化事業の成果として、マップ作成は終了とし、上記の連携という形での活動としていく

○「はたらくフローチャート」について
・「はぐるま」との連携や情報交換の中で、フローチャートの完成を目指す

3. その他お知らせ
○森本氏より、「職親会だより」の配布
○濱口氏より、「H25 年度『障害者等相談支援コーディネート事業』受託法人及び圏域コーの配布ディネーター一覧」の配布
○役場より、播磨町内で身体障害者中心の地域活動支援センターが、立ち上げ準備をしており、今月末には書類提出の予定である

5．次回開催日について
H25 年 6 月 18 日（火）10：00～　地域連携交流施設